

日本臨床発達心理士会神奈川支部



2024 年度第 2 号(通巻第 36 号)

2025 年 5 月版 神奈川支部発行

連絡先:神奈川支部広報担当

jacdpanagawa.kouhou@gmail.com

今回のニュースレターは、2024 年度第 2 回支部研修会の報告を中心にお届けいたします。

巻頭言

「児童発達支援ガイドライン」の改定と、その子どもと家族の今に寄り添う視点

(事務局長 白馬智美)

2024 年 7 月に、児童発達支援ガイドラインが改定されました。今回の改定では、子どもは権利行使の主体であること、そして子どもと家族のウェルビーイングの実現の視点が強く示されています。本人支援では、5 領域(「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」)に基づいて多角的・総合的な支援が求められています。

ガイドラインには、一人ひとりの子どもの育ちを丁寧に支えるために、支援全体の質を見直していこうというメッセージが、随所に込められているように感じます。たとえば、「子ども主体」とは単に選択肢を増やすことではなく、その子が安全・安心な環境で、その子らしい参加を保障していくこと。「家族支援」とは、保護者に何かを伝えるだけではなく、その家族の思いに寄り添うこと。「地域との連携」とは、支援の場は施設内にとどまらず、子どもの暮らし全体を支えるつながりを意識することなどなど…。

現代の子どもたちは、とても多様な環境のなかで育っています。家庭の状況や文化的背景、経済的格差や情報環境の影響など、支援者には柔軟で個別性に配慮したまなざしが求められています。私たち臨床発達心理士もまた、専門的な知見を活かしながら、子どもや家族の声に静かに耳をすませ、関係機関との橋渡し役となっていくことが期待されています。



神奈川支部研修会報告

2025年3月2日(日)に、2024年度第2回支部研修会を対面で実施いたしました。久しぶりの対面開催でしたが、大変有意義な内容でしたので、ご報告いたします。

講演会

〇子どもの社会性と自己理解に関する心理教育(SELを中心に)

講師：渡辺弥生氏(法政大学文学部心理学科教授)

2024年度第2回支部研修会では、法政大学文学部心理学科教授の渡辺弥生先生をお招きし、「子どもの社会性と自己理解に関する心理教育(SELを中心に)」というテーマでご講演いただきました。

ソーシャル・エモーショナル・ラーニング(以下、SEL)とは、すべての人が健全なアイデンティティを育み、感情をマネジメントし、個人および集団の目標を達成し、他者に共感し思いやりを示し、支え合う人間関係を築き・維持し、責任ある意思決定を行うための知識・スキル・態度を習得し、それを応用するプロセスを指します。SELは、単なるひとつのプログラム名ではなく、子どもたちの人間力を教育的に育てていくための包括的な体系であり、「自己理解」「セルフマネジメント」「責任ある意思決定」「社会や他者の理解」「対人関係スキル」の5つのコアスキルの習得を目的としています。海外では、その有効性に関するエビデンスが蓄積されてきているそうです。

SELの重要性が高まっている背景には、子どもの素晴らしさや子育ての楽しさといった、子どもの発達に関する基本的な理解が社会全体で乏しくなっていること、さらにデジタル社会の進展により、子どもの遊び方や家族団らんのあり方、育児のスタイル(スマホ育児など)が大きく変化していることが挙げられます。研修中には、感情に関する単語を思いつくままに挙げていく「気持ちのワーク」も行われ、大人自身が日常生活の中で感情を言葉で表現することの重要性を改めて実感する機会となりました。

研修の後半では、SELの5つのコアスキルを育むための具体的な方法の紹介や、渡辺先生が開発されたプログラムの紹介がありました。非言語コミュニケーションの重要性を体感するために、ある状況が書かれたカードをジェスチャーのみで他者に伝え、全員でその内容を当てるというグループワークを実施しました。グループの参加者同士で、うまく伝わらないもどかしさや、伝わったときの喜びを共有することで、ネット上では得がたい人間関係が育まれる土台を感じることができたのが印象的でした。そのほか、先生が開発し、通信制高校で実際に使用されている「コミュニケーションスキル」の教材(※詳細は[リンク先参照](#))や、SELのeラーニング教材(※詳細は[リンク先参照](#))についてもご紹介いただきました。

研修冒頭で、渡辺先生が「なるべくわくわく、主体的に学べるように」とお話されていましたが、まさにその言葉どおり、先生のお話から改めて発達心理学の面白さに触れ、グループワークも含め、久しぶりの対面開催ならではの学びと交流に満ちた、有意義な研修となりました。

(広報担当 須田恭平)

アンケートへのご協力ありがとうございました。ご意見ご感想の一部を紹介させていただきます。

アンケート結果

■研修の内容について

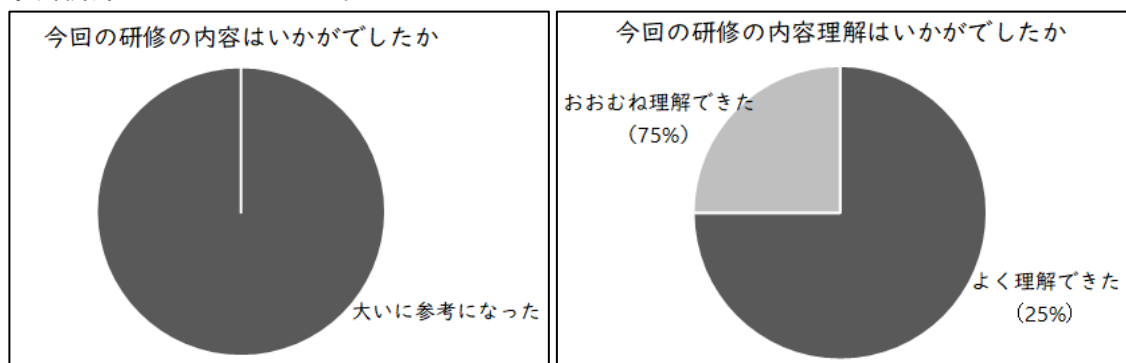
- ・子どもの感情を育てる以前に、大人が豊かな気持ちを持ち、それを子どもにもきちんと表現していくことが大切だと思った。仕事だけでなく、自分の子育てにおいても心がけたいと思った。
- ・具体的な実践に触れる機会、発達について理解を深めることの大切さを確認する機会になった。
- ・ネットで活用できる教材をたくさん開発中とのことで、とてもありがたい。
- ・自分の感情にどう向き合うか、自分自身を振り返る機会になった。
- ・参加していて楽しかった。現場で必要とされていること、取り組むべき問題が明確になった。
- ・とても和やかでリラックスして受講できた。講演の趣旨に合っていたと感じた。
- ・大学で保育者養成をしている。学生たちは実習等でも子どものいざこざ場面への対応に苦慮するという話を多く聞く。お聞きしたお話をもとに、子どもの理解の方法など伝えていきたい。
- ・グループワークがとてもよかった。現場に持って帰れそう。
- ・現場で課題となっている事柄にわかりやすく具体的に触れながら解説いただき、参考になった。
- ・感情に関する子どもや保護者と共有できるワークをしたいと思った。
- ・SELについて、あらためて学びになった。感情のジェットコースターをやってみたい。
- ・対人援助職として大事なことを学ばせて頂いた。
- ・学んだことをワクワクしながら職場での活動などにつなげていきたい。

■運営面について

- ・駅から近く参加しやすかった。
- ・久しぶりの対面研修で大変ではあったが、学びは多かった。
- ・オンラインと比べて対面はワークの際のコミュニケーションが取りやすくよかった。参加のハードルはオンラインの方が低いため、今後もオンラインと対面の両方があるとありがたい。
- ・対面で、会員や講師の先生方から刺激をもらうことができ、貴重な場となった。
- ・対面でワークもあり、zoomよりも理解しやすかった。講師の先生の熱量や雰囲気も感じられ、やはり対面での研修は良いなと思った。
- ・他の先生方と直接やりとりができたのは大変有意義だった。移動に時間がかかることを踏まえるとウェビナーもありがたい。

■今後の神奈川支部主催研修会について

- ・対面とオンライン、どちらにも良さがあると思う。各々の良さを生かしていければ良いと思う。
- ・様々な形式の研修があった方が良いと思う。オンライン、対面、それぞれの良さがある。
- ・感情の発達を支える方法についてもっと知りたい。
- ・事例検討会もできればよい。



貴重なご意見をありがとうございました。今後研修会に生かしていきたいと思っております。

(研修担当 吉村拓馬)

職場紹介



おだわら福祉農場 石井孝志

【私の職場 おだわら福祉農場】

平成 26 年障害者総合支援法に基づき就労支援継続 B 型事業所として、小田原市久野に開所いたしました。

その後、放課後等デイサービス・障害者グループホーム、地域の要望に応えるため、相談支援事業所（障害児・者）を開所し、現在は4つの事業を展開しています。

開所の契機となったのは、昭和63年度高校入学選抜試験において、障害のある中学生が受験し不合格となり、統合教育について考えさせられたことでした。その後インテグレーション、インクルージョン等、統合教育への意識の変化とともに、インクルーシブ教育へと教育に対する考え方が変化してまいりましたが、教育現場はその速度に追いつけず、特別支援教育と普通教育の狭間で苦しんでいる生徒が多く在籍している現状が現在もあると考えています。

そのような生徒たちの居場所として「おだわら福祉農場」を開所いたしました。現在、大学や専門学校、高等学校の卒業生が元気に通所され、各々の目標に向かって活動しています。このことが、おだわら福祉農場の特徴と言えます。

【代表としての日々の活動】

活動の中心は園芸活動ですが、園芸療法を用いて、チームでの作業、個人での作業等、必要に応じて仲間を意識しながら、個人で自身の作業分担に責任をもって取り組むといった園芸活動ならではの作業特性を日々の活動に活かし日々取り組んでいます。また、地域の企業さんよりポスティングやチラシの帳合、特殊なペンの組み立て、梱包等の受注作業もいただき、健康上の理由で屋外の作業が難しい方々の活動も可能となっています。

放課後等デイサービスの生徒達は、小学校1年生より高等学校1年生までの生徒が通所しています。「ただいま～」と来所され、元気よく時にはケンカしながら過ごしています。子ども支援のみならず家族への支援にも重点を置き、家庭を単位とし定期的に面接を実施しています。子どもの発達や親子の関り、学校への不信感等、内容は多岐にわたり、学校教育の難しさを日々感じています。

相談支援事業所では、サービス等利用計画の作成に係る面接より、必要なサービスの提供の提案や相談者の立場より適切なサービス提供事業所へのつなぎ役等の役割を担い、御用聞きのような立ち位置ではなく、相談者に最も適したサービス提供に心がけています。他の事業所と大きく異なる特徴と自負しています。

私は現在、福祉従事者ですが、臨床発達心理士でもあるので、教育者として生徒・学生へ指導した経験も最大限活かしながら、カウンセラースーパーバイザーとして、心の健康も大事にした利用者ファーストの支援を心がけ、心と身体の健康を提供し、「になりたい自分になるため」に必要なサービスを提供する、おだわら福祉農場の代表として精進してまいります。

「職場紹介」のコーナーについて

今回担当して下さった石井様、原稿を寄せて頂き、ありがとうございました。

神奈川支部では支部会員同士の交流にも重点を置いて活動をしてきており、このコーナーもその一環として長年続けてきましたが、今回の通巻第 36 号をもちまして、終了することとなりました。今後のニューズレターは研修報告を中心に、研修終了後タイムリーに配信することにいたしました。

今までたくさんの会員の方に職場紹介をしていただき、感謝しております。研修会後のアンケートでこのコーナーに対する協力を申し出てくださる方が脈々とおられたこと、大変ありがたく思っております。

広報担当としては、今後も皆様にお役に立つニューズレターを工夫をしていく予定です。

どうぞよろしくお願いいたします。

お知らせ

■ 神奈川支部 2025 年度 総会

○ 日 時:2025 年 5 月 18 日(日) 10:00~11:00 (Zoom によるオンライン開催)

※ 任期満了に伴い支部選出の代議員選挙も定期総会において実施いたします。

詳細につきましては、支部のホームページまたは、支部からのメール(4 月 5 日付)をご確認ください。

■ 神奈川支部 2025 年度 第 1 回支部研修会(予定)

- 日 時: 2025 年 9 月 7 日(日) 10:00~13:10 【1 ポイント】
- 内 容: <講演会> 「オープンダイアログ」のアプローチで考える、ひきこもり・不登校への支援(仮題)
- 講 師: 斎藤環氏(筑波大学名誉教授、つくばダイアログハウス院長、精神科医)
- 場 所: ユニコムプラザさがみはら 対面開催
- 参加費: 本会支部会員(準会員を含む)1000 円、
本会員ではない神奈川在住・在勤の臨床発達心理士 6000 円

※ 詳細が決まりましたら、神奈川支部のホームページまたは、メール配信システムにて配信します(新法人に登録された神奈川支部会員の方のみ)。

<編集後記>

臨床発達心理士神奈川支部では、会員の皆様に有益な研修や情報をお届けできるよう、役員一同努めてまいりました。その一環として、ニュースレターを毎年発行してまいりましたが、今回で通巻第 36 号となりました。毎回支部研修会の報告を中心に、巻頭言、職場紹介、次回の研修情報等を盛り込んだ形で発行してきましたが、それが続けられたのも会員の皆様のご協力あってのことと感謝しております。2025 年度の次号からは、形式を変え、支部研修会の報告をできるだけスピーディにご報告できる形としたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

今回のニュースレター全体をお読みになったの感想や、今後のご希望などありましたら、広報担当宛てメールアドレス(jacdpanagawa.kouhou@gmail.com)にご連絡をお願いいたします。

(広報担当 橋爪美津子・須田恭平)